

(案)

キリストの愛に駆り立てられて、人々と共に歩む教会
カトリック福岡教区の「宣教司牧方針」

1. 「出向いて行く教会」となる

弱い立場に置かれている人々と共に歩み、福音を証しし、伝える

2. 互いに支え合う「交わりの教会」を築く

一致と協力体制を強化し、教会の中の福音的交わりを育てる

3. 「新しい時代に開かれた教会」となる

教会における青少年の役割を促す。
国際的な共同体の育成に努める。

福岡教区の「宣教司牧方針」(案)

このテキストは、各小教区、また、いくつかの委員会、修道院やグループからいただいた意見をまとめたものです。それに教皇様が出された方針や日本の教会の方針をも念頭に置いてまとめられたものです。「宣教司牧方針」の準備委員会がまとめてくださいました。これから、色々な場で話し合いを持っていただいて、内容を確認していただきたいと思います。そのために、アンケートをお願いしています。その結果によってテキストは修正され、最終的に 2022 年の初め頃正式に福岡教区の「宣教司牧方針」として発表したいと思います。

その後、各小教区等で、それぞれの状況に合わせて、宣教司牧方針で示されていることの中から、自分たちのところでどういうことが出来るか、どういう課題に力を入れるかを考えなければなりません。一人ひとりの信仰の深まりや福音宣教の活性化につながるものになることを期待しています。よろしくお願ひします。

福岡、2021 年 9 月 12 日

ヨゼフ アベイヤ

福岡教区司教

1. 「出向いて行く教会」となる

弱い立場に置かれている人々と共に歩み、福音を証しし、伝える

(1) 一人ひとりが、信仰の賜物を感謝のうちに受け止め、深める。

そのために:

- ① すべての土台である祈りを大切にする。
 - 個人的に祈りの時間を持ち、家庭においても祈りの時間を取るよう努力する。
- ② 祈りを学ぶ場と機会を作る。
 - 小教区や地区で祈りを学ぶ企画を立てて実行する。
 - 教区にある施設で(真命山等)プログラムを提供し、参加を促す。
- ③ みことば、特に福音書により深く親しむ。
 - みことばを祈りのうちに味わうことを学ぶ。
 - みことばの分かち合いを、各小教区、各教区委員会の歩みと活動の中で具体的に行うようにする。
- ④ 分かち合いを通して、生活に根ざした信仰を育てる。
 - 「小さなグループ」での分かち合いを推進する。

(2) 生活と結び付いた典礼を目指す。

そのために:

- ① ミサを大切にする。
 - 人々を生きるために命を捧げられたキリストに養われて、すべてのいのちを守り育む人間として生きる。
- ② 主日のミサへの参加を皆に呼びかける。
 - 主日の典礼を丁寧に準備し、様々な役割を果たす人を増やす。
- ③ 子どもたちがミサに親しむように工夫する。
 - 時々「こどもとともにささげるミサ」を行う。
- ④ ミサの共同祈願に現実を踏まえた意向を加える。
 - 世界や地域社会の現実に結び付いた意向を加えるように心がける。

(3) 自分の信仰を自分の言葉で語り、福音的な価値観を身に付ける養成を行う。

そのために:

① 聖書を学ぶ。

- 各小教区で聖書の勉強会を行う。また、地区ですすでに行われている企画を応援し、充実させる。
- ② 教区や各地区に「養成・宣教委員会」を設置する。
- 委員会が年間のプログラムを作り、福音宣教に向けて養成を行う。
 - 信徒、修道者、司祭によって形成された養成チームを作る。
 - ONLINE のプログラムを提供する。

(4) すべての人々を温かく迎え、イエスとの出会いから来る喜びと希望を多くの人々と分かち合う。

そのために:

① 生活を通して福音を証しし、伝える

- 毎日の生活の中で身近な人々と福音の喜びを分かち合う。

② 教会の門を開き、訪れる人々を温かく迎える。

- 各小教区で教会に来られる人々を温かく迎える態勢を整える。
- 地域とのつながりを大事にし、そのニーズに応えるように心がける。

③ 各小教区で、キリスト者でない人々のためのプログラムを提供する。

- 入門講座の担当者の養成を続ける。
- 地区やいくつかの小教区が協力して、キリスト者でない人々を対象としたプログラムを作ってみる。

④ カトリックの医療施設において出会う人々に、関わりを通して福音がもたらす癒しと希望に触れていただくように心がける。

- カトリック医療施設の働きを支え、できるだけ宣教司牧の面で協力する。

⑤ 現代のコミュニケーションの新しい技術を使って福音宣教を行う。

- 教区のホームページを初め、この分野の働きを充実させる。

(5) 社会の現実を福音的なまなざしで見ると弱い立場に置かれている人々と真剣に関わる。

そのために:

① 社会の現実と向き合い、イエスのまなざしで見る。

- イエスのように、特に弱い立場に置かれた人々と真剣に関わる。

② 必要な助けを欠いている人々に寄り添う。

- 人としての尊厳が損なわれている人々に関心をもち、具体的な行動をとる。

③ 教会の社会教説を学ぶ。

- 様々な課題に対する教会の見解を学び、それに基づいた取り組みを企画する。

④ 社会活動の靈性を深める。

- キリスト者の社会活動の土台である信仰と具体的な取り組みとの結びつきを固める。
- 社会問題に取り組むことによって、信仰体験を深める。

(6) 神が望んでおられる正義と平和を基礎とする社会を築くように多くの人々と協力し、具体的な活動に取り組む。

そのために:

① 一人ひとりが信仰者として社会の課題に関心を持つように促す。

- 社会問題への様々な関わり方(祈り、具体的活動など)を認め、評価し、互いに支え合う。

② 教区や地区に社会福音化委員会を設置する。

- 委員会を通して、社会問題に携わっている様々なグループの活動を、それぞれの特徴を尊重しながら、包括しお互いの協力を推進する。

③ 日本の教会の8月と9月の企画に参加する。

- 福岡教区では、毎年8月の「平和旬間」と9月の「すべてのいのちを守るための月間」のためのプログラムと活動を企画する。

④ 人類の将来にかかわる環境問題に積極的に取り組む。

- 地域の活動に加わる。
- ラウダート・シを学び、環境問題の活動を行う。

⑥ 日本の教会で社会問題に取り組んでいる委員会やグループと協力する。

- 提供されているプログラムに積極的に参加しながら、福岡教区の活動の充実を目指す。

⑦ 教会外のグループとの協力を強化する。

- 同様の価値観の下で社会問題に取り組んでいるさまざまなグループと協力する。

2. 互いに支え合う「交わりの教会」を築く

一致と協力体制を強化し、教会の中の福音的交わりを育てる

(1) イエスを中心とした交わりを絶えず深める。

そのために:

- ① ミサに積極的に参加することによって、共同体の一致を強める。
 - 同じ食卓を囲んでキリストにおいて結ばれた共同体として、具体的に小教区、地区、教区において一致を保ち育てるように努める。
- ② 小教区共同体の一致を保つように最善を尽くす。
 - 人間関係等につまずいて、教会を離れた兄弟姉妹を心に留め、共同体に戻れるように働きかける。
 - 司牧者と教会委員会のメンバーをはじめ、すべての信徒は健全な交わりを築いていくように努める。

(2) コミュニケーションを強化して、教会の一致を保ち、交わりを強める。

そのために:

- ① 教会における対話とコミュニケーションを強化する。
 - 信徒、修道者、司祭、司教の間のコミュニケーションを促進する。
 - 司祭と司教、また、司祭同士の間の一一致を深めるように、対話の場を増やし、大事にする。
 - 信徒と司祭、また、信徒同士の一一致を保ち、深めていくように互いに丁寧に聴き合い、共通理解のもとで教会の様々な事柄を決定する。
- ② 教区と各地区に「宣教司牧評議会」を設置する。
 - 教区の歩みを識別する場として教区と各地区に信徒、修道者、司祭によって構成される「宣教司牧評議会」を設置する。
 - 宣教司牧評議会でも話し合われた内容と決定事項は速やかにすべての信徒に報告する。
- ③ 各委員会の活動を皆に知らせる。
 - 各委員会間のコミュニケーションを強化する。そのために教区報と教区のホームページを活用する。

(3) 委員会と活動団体への参加を促し、それぞれの活動によって教区全体の歩みを支える。

そのために:

- ① 教区の委員会を再編成する、
 - 各委員会の委員に信徒、修道者、司祭を任命する。
 - 各地区や小教区で、できるだけ、教区と同じ委員会を作る。できない場合は、その分野の担当者を決める。

② 種々の団体に期待を置き、その活動を認め支える。

- 信徒使徒職協議会、女性の会、修道女連盟、青年会等の活動を大事にし、教区全体の活性化につなげる。

(4) 一人ひとりが与えられた召し出しの賜物を自覚し、互いにそれを認め合い、支え合う。

そのために:

① 一人ひとりが与えられた召し出しを忠実に生きるように支え合う。

- 信徒、修道者、司祭として一人ひとりが与えられた召し出しと使命を誠実に受け止め、それらを忠実に果たすようお互いに支え合う。

② 宣教司牧評議会や教会委員会の働きを大事にする。

- 教会の現状を分析し、教会共同体の課題と福音宣教に取り組む道を識別する場として、教区と地区の宣教司牧評議会、また、各小教区の教会委員会を定期的に関き、話し合いの内容と決定事項を皆に報告する。

3. 「新しい時代に開かれた教会」となる

教会における青少年の役割を促す。
国際的な共同体の育成に努める。

(1) 青年たちが自発的に取り組んでいる活動を支援し、更に、教区や地区として新しい企画を試みる。

そのために:

- ① 青年たちが集える場を作る。
 - 教区に、また、それが可能である地区に「青年センター」を設置する。
 - 青少年委員会はセンターのあり方と活動について提案を作る。
- ② 現代社会の中で信仰を生き、証しする青年の育成を目指す。
 - 体験学習、巡礼、ボランティア等を企画し、それらを通して信仰体験を深め、仲間とのつながりを強める。

(2) 青少年の信仰教育のプログラムを充実させ、リーダーの育成に力を入れる。

そのために:

- ① 教会学校の充実を目指す。
 - 教会学校に子供たちを誘い、人数が少なくても各小教区で定期的に行う。
- ② 中学生・高校生の活動を支える。
 - 教区で行われてきた中高生のキャンプ等の活動を継続する。
 - 各小教区で堅信の秘跡の準備を丁寧に行い、必要ならいくつかの小教区が共同で一緒に行うように協力する。
- ③ 青少年のリーダーの育成を続ける
 - 教会学校リーダーを増やし、リーダー育成プログラムを教区や地区で企画し、実行する。

(3) 司祭職や修道生活への召し出しを促進する。

そのために:

- ① 司祭職や修道生活への召し出しのために祈る。
 - 召し出しのために祈るグループの活動を支え、また、主日のミサの共同祈願の中に必ずその意向を入れる。
 - 青年が、司祭、修道者とじっくり触れ合う機会をつくる。
- ② 青少年司牧と召命推進活動のつながりを強めるように努力する。
 - 青少年の信仰教育のプログラムを充実させ、司祭職や修道生活への召し出しの識別を助ける。

(4) 福岡教区にある教育事業等の活動を支える。

そのために:

- ① 教会にとって多くの子供たちと青年たちとの出会いの場である教育事業(大学、高・中・小学校、幼稚園、保育園、福祉施設等)の働きを支える。
 - 子供たちや青年たちの現実をしっかりと受け止めて、福音の価値観に基づいた教育を提供する。
 - 子供たちや青年たちが抱えている課題に耳を傾けて彼らの歩みを支える。
- ② カトリックの教育事業で働く人々の育成に力を入れる。
 - カトリック学校教員や幼稚園、保育園、福祉施設の管理職の養成のために、修道会や他の団体と協力しながら具体的な企画を作る。
- ③ 教区、小教区と教育事業の協力体制を強める
 - 小教区と隣接する幼稚園、保育園、福祉施設との協力を大事にする。
 - 司祭は、できるだけ、園児、先生、職員、保護者と関わるように努力する。

(5) 外国から来た信徒が福岡教区にもたらす多くの賜物を喜んで受け入れ、この兄弟姉妹たちと積極的に関わる。

そのために:

- ① 外国から来た信徒との関わりを強める
 - 彼らを温かく迎え、積極的に関わる。
 - 国籍や文化を超えた交わりを大事にし、日本社会において、すべての排除をなくして共に生きる大切さのしるしとなる。
- ② 外国から来た信徒の各委員会への参加を促進する。
 - 教区、地区、小教区の様々な委員会に外国から来た信徒を加えるように工夫する。
- ③ 外国語の司牧的なケアを大事にする。
 - 教区として、外国語のミサの場所と時間を公式に決めるようにする。
 - 各国のグループが教区全体や各小教区の歩みに積極的に加わるように呼びかける。
 - 非常に多いベトナム人のニーズに応えるように司牧チームを作り、教区に事務局を設置する。
- ④ 難民移住移動者との関わりを強化する。
 - 日本の社会の中で色々な理由で困っている難民移住移動者を心にかけて、難民移住移動者委員会を中心に活動を行う。
 - カトリック教会の委員会や他のグループと協力しながら、誰をも置き去りにされない社会を目指して、積極的な活動を展開する。